平成　26　年度　基礎評価シート

		担当部課等名	総務課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(12) 人権・平和の推進	実施計画事業	2) 平和推進事業(№49)
予算等事業名	ガラスのうさぎ像平和と友情推進事業		
目的	平和に関する事業を実施することにより、平和に対する町民一人ひとりの意識高揚を図る。		
内容	町の平和と友情のシンボル「ガラスのうさぎ像」建立の精神を引き継ぐとともに、平和への関心を高める。		
根拠法令・条例等	―		
体制	☑ 町職員実施　☐ 一部委託あり　☐ 全部委託　☐ その他		

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか	
☐ ① 計画どおりに進捗している　☐ ②計画より遅れている　☐ ③未実施	
②、③に対する理由	

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか	
☐ ①検討できる　☐ ②削減は困難	
理　由	

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか	
☐ ①検討できる　☐ ②効率化は困難	
理　由	

中間評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要　D:計画未実施のため継続の必要性がない(休止・廃止)	
	【説明】	

総合評価

実績	毎年8月5日にガラスのうさぎ像平和と友情のつどいを開催
中間評価との相違点	―

事業指標(数値指標)	参加者数			
前期(27年度)目標値 単位:	500名		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	―
	250名			

事業費の推移と財源の内訳　（単位：千円）

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		199	175				
財源内訳	一般財源	199	175				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当　B:どちらかといえば妥当　C:妥当ではない	A
	【説明】 ガラスのうさぎ像が建てられた経緯を知ることにより、平和の大切さを後世に伝えるため。	
	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない　B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 小中学生に平和教育の一環として実施するにあたり、町が主体となって行なう必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている　B:成果が上がっている　C:成果が上がっていない	A
	【説明】 毎年300～500名の参加があり、色々な催しを実施することにより平和の大切さを若い世代伝えることが出来ている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である　B:改善の余地がある　C:効率的ではない	A
	【説明】 実行委員会形式で実施しているが、委員ついては無償であり、消耗品等についても必要最低限の費用で開催を行なっている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 二宮町にガラスのうさぎ像が建てられた経緯を多くの人に知らせ、平和の大切さについて後世に伝えるため、引き続き事業を実施しゆく。	
今後の方針(課題・意見等を箇条書き)	ガラスのうさぎ像を千羽鶴で飾る事業について、平成26年度より町が主体となって行なう。	

◎評価者[担当主管課長]

☑	① 現状維持	☐	②改善して町が実施	☐	③改善して町以外が実施	☐	④廃止

理由	ガラスのうさぎ像の建立経緯と平和の尊さを後世に伝えて行くための事業として必要である。
今後の方向性	平成26年度よりガラスのうさぎを千羽鶴で飾る事業を推進委員会の事業として取り入れた。千羽鶴の事業を含めたガラスのうさぎの事業を町の平和教育の中心に位置付けて平和の尊さを後世に伝えて行きたい。